

海津市まちづくり委員会「第13回ふるさと定住促進検討分科会」会議録

開催年月日	平成22年8月31日(火)	
開催場所	海津市役所海津庁舎3階「委員会室」	
分科会委員定数	14名	
開　　会	午後1時30分	
閉　　会	午後3時30分	
出席者	○分科会委員	
	公募市民	村上 碩也
	公募市民	古川 義弘
	公募市民	藤田 繁己
	公募市民	加々本 紘一
	公募市民	柴田 夕ヨ子
	公募市民	堀田 義郎
	公募市民	坂本 由貴
	公募市民	伊藤 祥子
	女性人材リスト登録者	安部 晶子
	岐阜経済大学経済学部教授	池 永輝之
	○事務局 企画政策課 課長	
	〃	係長
	〃	主任
	中島 哲之	
	後藤 政樹	
	毛利 卓司	
欠席者	公募市民	
	高須生活学校代表	本多 高洲
	女性人材リスト登録者	加藤 佳余子
	海津市自治連合会代表	石川 晴代
		諏訪 薫

会議次第

1. 開会
2. あいさつ
3. グループワーク
 - ・人口流出対策を分野ごとに企画
【生活環境(住宅環境含む)、自然環境、その他(高齢者等)】
【地域コミュニティ】
 - ・企画発表
4. 前回の企画案について
 - ・意見交換
5. 閉会

会議録（要約）

事務局	ただいまから海津市まちづくり委員会「ふるさと定住促進検討分科会」第13回目の会議を開催させていただきます。 はじめに会長よりあいさつをお願いします。
会 長	(あいさつ)
事務局	ありがとうございました。 それでは次第にしたがいまして進めさせていただきます。 本日は、「生活環境（住宅環境含む）、自然環境、その他（高齢者等）」「地域コミュニティ」について企画案を作っていたいただきたいと思います。事務局からの話題提供として、自然環境と地域コミュニティの紹介をさせていただきます（参考資料）。グループ討議の際、議論の材料として活用いただければと思います。 なお、企画案を議論していただくグループワークにつきましては、本日が最後となる予定です。日程的にも報告書のまとめ段階が近づいてまいりましたのでお知らせさせていただきます。 それでは、これからグループごとで議論を始めてください。よろしくお祈いします。 <グループワーク> それでは、これからグループごとに発表していただきたいと思います。
A委員	(Aグループ) 若者が市外に住居を求めているという実情を踏まえ、かつては新興住宅だった団地や農家の空き家（予備軍）が相当数あることから、そうした空き家を住宅供給に役立てる事は出来ないか、また、市内に居を構え近居を奨励すれば子育てや介護の問題に対しての一助となるのではないかと考えました。 そこで、実施することとして、 ① 不動産関係の空き家対策組合を作り、市内・近隣市町に情報を流し、中古販売より改築販売を行う、循環型住宅の仕組みづくり ② ①の実施に合わせ行政が助成を行う 詳細の内容を説明させていただきます。 1. ①の組合を立ち上げるに当たって利害関係の凹凸を防ぐ為、市内の不動産業者は全員資格を有する事とします。 2. 空き家の実態調査を行い、持ち主の意識調査をします。 3. 不動産の状況等市民一般に広報等で提供します。 4. 住宅は建替えが余儀なくされる事と思われるので、頭金（無利子貸出し）や固定資産税（5年免除）など、行政が何らかの支援をします。 特に、空き家販売については市側の助成を強く要望したいと思えます。また、不動産の情報は絶えず公平に共有できるような環境を作っていたいただきたいと思います。

と思います。
空き家持ち主への意識調査をするに当たってのアイデアとして、例えば固定資産税納付書に意見意思を聞く用紙を同封することはどうだろうといった意見がありました。
人口増加は直ぐには見込まれないと思われることから、せめて今居る三、四十代の若者が流出しないよう何らかの手を打つ必要があります。この住宅問題は容易ではないかも知れませんが定住につながる可能性が高いと思われます。

(Bグループ)

B委員

生活環境については、ゲリラ豪雨など、今までなかったようなとか、予測できなかったといった天災が出てくるようになりました。そこで、住民が安心感をもてる施策を実施し、安全・安心に暮らせるまちとして広く認識されれば、移住定住につながるのではないかと考えます。災害の種類も地域によっては心配される内容も変わってきます。南濃町ですと、土砂災害が考えられます。海津や平田は山がありませんので、そういった地域の状況に応じた対策が必要であると思います。また、防災訓練においては、市内全域の各主要避難所で実施するというものですが、訓練内容はすべて同じですので、これを地域の状況に応じた訓練を行い災害時のネットワークづくりを考えてみてはどうかと思います。防災の日だから訓練をするということではなく、地域に応じた対応といざという時のネットワークを作っていくことが“安全なまち”として意識されるのではないのでしょうか。また、治山事業として植林をしていると思いますが、例えば植える木をサルやイノシシの餌となるような植物も一緒に植えることによって、畑などの被害も多少なりとも減らせるのではないのでしょうか。

地域コミュニティについては、人のつながりの強化、シルバー世代の活用、女性に対する働きかけを考えていく必要があります。

シルバー世代の活用については、シルバー人材センターを活用するという意味ではなく、地域の元気で暇のあるシルバー世代にボランティアや地域の役割のサポートをしてもらえる機会や仕組みを作っていくというものです。

事務局

ありがとうございました。

それでは、次回は報告書の一次素案についてご審議いただきたいと思います。今までのワークショップでのご意見やグループ発表での企画案、また個々でお考えいただいた企画書、そうしたものをまとめて、報告書の素案に落としこんでまいります。なお、報告書完成予定は年内となっております。

以上をもちまして海津市まちづくり委員会「第13回ふるさと定住促進検討分科会」を終了いたします。